

EU のアジア大洋州における 自由貿易協定（FTA）交渉の動向

2016 年 3 月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

ブリュッセル事務所

海外調査部 欧州ロシア CIS 課

欧州委員会は2015年10月に新貿易戦略「万人のための貿易：より責任のある貿易・投資政策に向けて」¹を発表した。この戦略の中で、欧州委員会はアジア大洋州地域がEU経済の成長のカギを握っていると指摘し、現在進行中の通商交渉の妥結を優先課題に位置付けた。さらに、同戦略の発表時点で、FTA交渉が開始されていなかった、インドネシアとフィリピン、オーストラリアとニュージーランドについても早期の交渉開始の方針を打ち出した。

EUは、シンガポールとベトナムについては交渉を妥結。しかし、マレーシアとタイは交渉を開始したものの、その進捗は停滞気味だ。同様に、インドとも2007年にFTA交渉を開始したが、2013年以来、交渉は停滞している。

本稿では、EUがFTA妥結・交渉開始を優先課題と位置付けるこれらの国々（インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、インド、オーストラリア、ニュージーランド）について、EUとの貿易の現況と、FTA交渉の進捗状況（交渉開始前の国については、交渉開始に向けた動向）について取りまとめた。

目次

1. インドネシア.....	1
2. マレーシア	4
3. フィリピン	7
4. タイ	9
5. インド.....	12
6. オーストラリア	15
7. ニュージーランド	18

【免責条項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェットロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェットロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

¹ http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2015/october/tradoc_153846.pdf

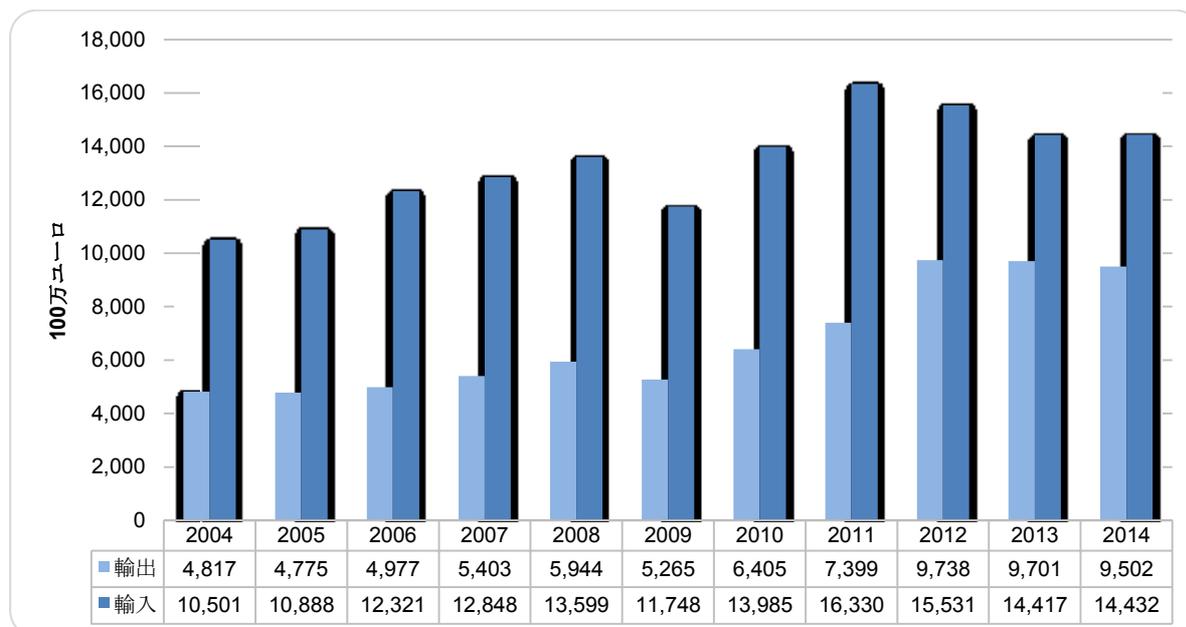
1. インドネシア

(1) EU との通商関係の現況

インドネシアは、東南アジア諸国連合（ASEAN）の加盟国中、最大の経済規模を誇るが、2014年のEUとの貿易総額は、同地域で5位だった。同年のインドネシアからEUへの輸入額は144億ユーロ、EUからインドネシアへの輸出額は95億ユーロとなり、EUの対インドネシア貿易収支は49億ユーロの赤字だった。

EU・インドネシア間の貿易額は、2004～2014年にかけて56.2%（86億ユーロ）拡大した。特に、EUからインドネシアへの輸出額は、同期間に97.3%（47億ユーロ）増とほぼ倍増している。また、2014年のEUの対インドネシア貿易を前年比で見ると、輸入額はほぼ横ばい、輸出額は2.1%（2億ユーロ）縮小した。

図1：EUの対インドネシアの輸出入額の推移（2004～2014年）



出所：欧州委員会、European Union, Trade in goods with Indonesia (October 2015)

http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113391.pdf

2014年のインドネシアからEUへの主な輸入品は、動物性・植物性油脂で、輸入額の合計の20.3%（29億ユーロ）を占めた。これに、機械・機器（12.3%、18億ユーロ）、繊維（11.5%、17億ユーロ）が続いた。2013年から2014年にかけて輸入額の変動が最も大きかった品目は化学品で、1億ユーロ（13.5%）減少した。また、動物性・植物性油脂は、1億ユーロ（3.6%）増加した。

EUからインドネシアへの主な輸出品は、機械・機器で、2014年の輸出額の合計の38.4%（37億ユーロ）を占めた。2位は輸送機器（18.7%、18億ユーロ）、3位は化学品（12.5%、12億ユーロ）だった。2013年から2014年にかけて輸出額が最も大きく変動した品目は卑金属

およびその製品で、3 億ユーロ（42.6%）減少、その一方、機械・機器の輸出は 2 億ユーロ（7.0%）増加した。

図 2：EU のインドネシアへの輸出金額の品目別割合（2014 年）

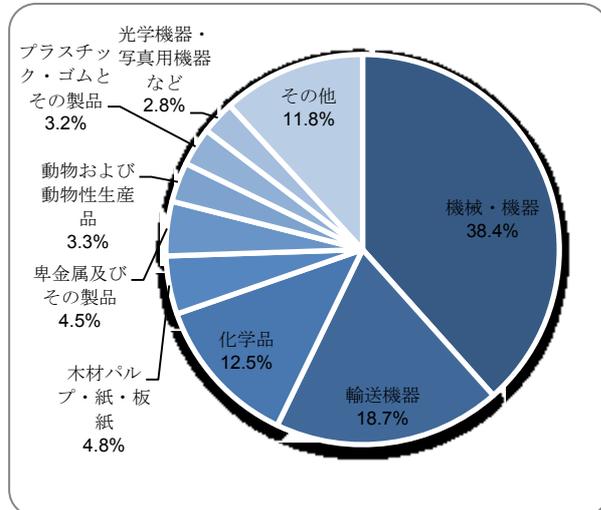
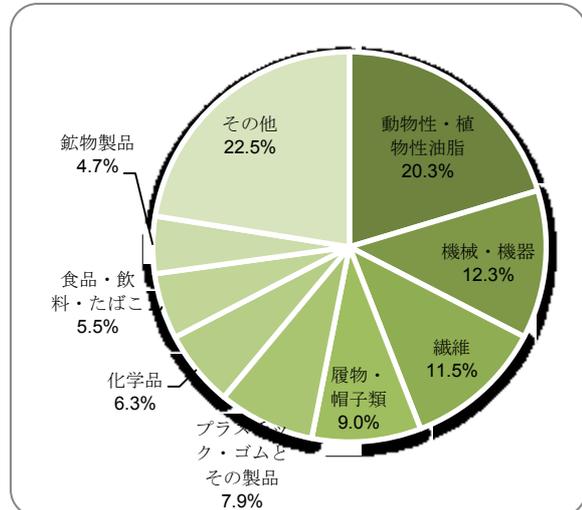


図 3：EU のインドネシアからの輸入金額の品目別割合（2014 年）



出所：図 1 と同じ。

(2) FTA 交渉開始に向けた動向

EU は 2007 年 5 月に、ASEAN との地域間 FTA 交渉を開始したものの、交渉は難航し、2009 年 12 月に各国との個別交渉に切り替えることを決定した。これとほぼ同時に、欧州委員会のホセ・マヌエル・バロゾ委員長（当時）とインドネシアのスシロ・バンバン・ユドヨノ大統領（当時）は、双方の有識者からなる「ビジョン・グループ」を設立し、貿易・投資の促進に向けた施策の検討を要請。同グループは 2011 年 5 月に報告書を発表し²、二国間 FTA の交渉開始を提言した³。

欧州委員会のジョン・クランシー通商担当報道官（当時）は 2012 年 7 月、メディアの取材に対して「インドネシアは天然資源に恵まれ、中間層が拡大し、相当な規模の国内市場を持つ東南アジア最大の国である」として、同国との FTA 交渉開始に関心を表明。EU が合意を目指す分野として、関税・非関税障壁を含む物品貿易、サービス、投資、公共調達、競争、知的財産権、持続可能な開発などを挙げた⁴。

² http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2011/july/tradoc_148063.pdf

³ <http://ec.europa.eu/trade/policy/countries-and-regions/countries/indonesia/>

⁴ <http://neurope.eu/article/eu-start-fta-negotiations-indonesia/>

欧州委員会によれば、EU とインドネシアは、FTA 交渉開始に向けて、上述のビジョン・グループの提言以来、密に対話を行ってきた⁵。しかし、一部報道によると、2014 年のインドネシアの国会議員選挙と大統領選挙以降、こうした対話は停滞しているという⁶。

なお、2016 年 2 月の報道によると、インドネシアのトーマス・レンボン商業相は、EU との FTA 締結による、関係強化に意欲を表明。また、FTA 締結によるインドネシアの通商政策の近代化と改善に期待感を示し、EU との FTA を、インドネシア政府が交渉を進める通商協定の中でも最優先事項に位置付けているという。同相は、FTA により、カカオやパーム油、繊維製品、履物、食品・飲料などの EU 向け輸出の拡大の可能性があると指摘。その一方、政府はいかなる通商協定についても、まずはその影響を注意深く検証する意向だという⁷。

⁵ <http://ec.europa.eu/trade/policy/countries-and-regions/countries/indonesia/>

⁶ <http://www.indonesia-investments.com/nl/news/news-columns/indonesia-free-trade-agreements-indonesia-eu-cepa-tppefta/item6484>

⁷ <http://www.indonesia-investments.com/nl/news/news-columns/indonesia-free-trade-agreements-indonesia-eu-cepa-tppefta/item6484>

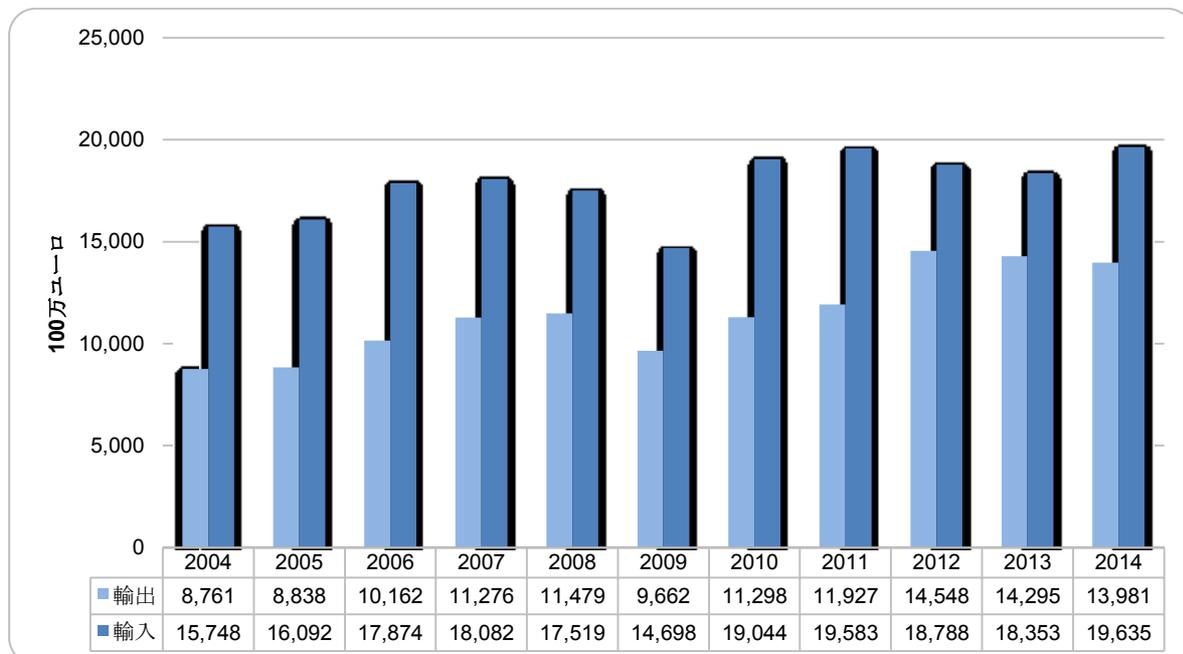
2. マレーシア

(1) EU との通商関係の現況

2014年のマレーシアからEUへの輸入額は196億ユーロ、EUからマレーシアへの輸出額は140億ユーロとなり、マレーシアはEUにとって、ASEAN加盟国の中でシンガポールに次ぐ第2位の貿易相手国となった。また、同年のEUの対マレーシア貿易収支は、57億ユーロの赤字だった。

EUの対マレーシア貿易は、2004～2014年にかけて、37.2%（91億ユーロ）拡大、同期間に輸入と輸出はそれぞれ24.7%（39億ユーロ）、59.6%（52億ユーロ）拡大した。前年と比較すると、2014年の輸入は7%（13億ユーロ）拡大した一方、輸出は2.2%（3億ユーロ）縮小した。

図4：EUの対マレーシアの輸出入額の推移（2004～2014年）



出所：欧州委員会、European Union, Trade in goods with Malaysia (October 2015)

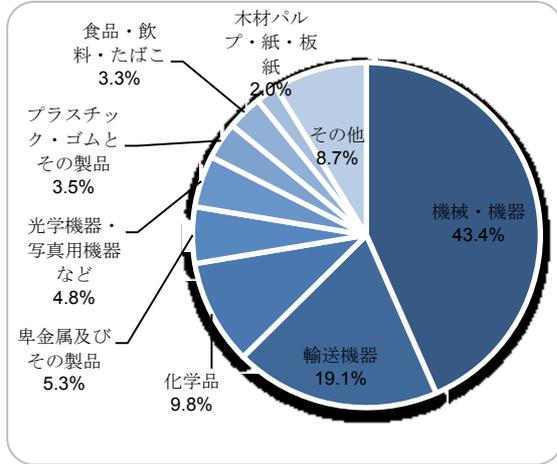
http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113416.pdf

マレーシアからEUへの主な輸入品は、機械・機器で、2014年の全輸入額の60.6%（119億ユーロ）を占めた。これに動物性・植物性油脂（7.7%、15億ユーロ）、プラスチック・ゴム製品（7.5%、15億ユーロ）が続いた。なお、2013年から2014年にかけて輸入額が最も大きく変動した品目は、機械・機器で、13億ユーロ（12.2%）増加。また、プラスチック・ゴム製品は2億ユーロ（12.1%）減少した。

EUからマレーシアへの輸出においても、機械・機器の割合が最も大きく、2014年の全輸出額の43.4%（61億ユーロ）を占めた。2位は輸送機器（19.1%、27億ユーロ）、3位は化学品（9.8%、14億ユーロ）となった。なお、2013年から2014年にかけて輸出額の最も変動の大き

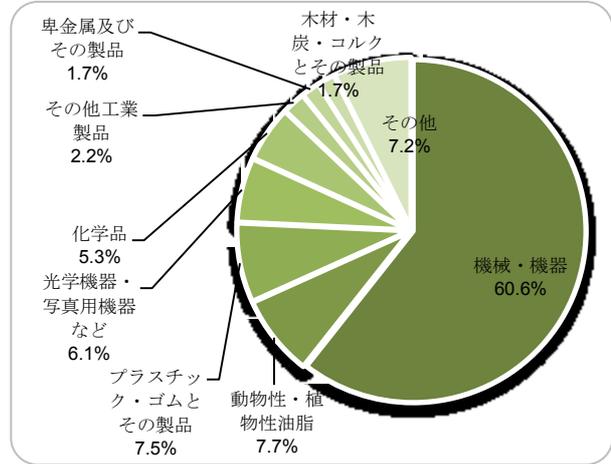
かった品目は、卑金属及びその製品で、5 億ユーロ（42.2%）減少した。その一方、機械・機器の輸出が3 億ユーロ（5.4%）増加し、これを補う形となった。

図 5：EU のマレーシアへの輸出金額の品目別割合（2014 年）



出所：図 4 と同じ。

図 6：EU のマレーシアからの輸入金額の品目別割合（2014 年）



(2) FTA 交渉の進捗状況

上述の通り、地域間 FTA 交渉から、二国間の個別交渉へと方針転換がなされた後、EU・マレーシア間の FTA 交渉は、2010 年 10 月にブリュッセルで正式にスタートし、2012 年 4 月までに 7 回にわたるラウンド交渉と、専門作業部会が実施された。欧州委員会は「マレーシアとの交渉は道半ばを過ぎたものの、最も困難な問題は未解決のまま」としている。交渉は、2013 年のマレーシアの総選挙のため、一時中断しており、2016 年 2 月現在、次回ラウンド交渉の日程は未定のまま⁸。

欧州委員会のセシリア・マルムストロム委員（通商担当）は 2015 年 4 月、マレーシア・EU ビジネス会合で、マレーシア側に交渉の再開を促し、次の課題に言及した⁹。

- （交渉再開の）出発点として、関税に関する提案を見直す。
- サービス分野の見直し。市場アクセスと、規制の透明性が特に重要になる。
- 「パルマ・ハム」や「ロックフォール・チーズ¹⁰」などの地理的表示に加えて、知的財産権に関する重要な側面を検討する。
- 輸出関税に関する交渉の実施。天然資源市場の開放は、EU にとって原則の問題であり、輸出関税のような「近隣窮乏化政策」は、できる限り少ない方が好ましい。

⁸ http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/december/tradoc_118238.pdf

⁹ http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2015/april/tradoc_153392.pdf

¹⁰ フランス南部メディエピレネー地域アペロン県産の青カビチーズ

- 公共調達に関する交渉の実施。公共調達市場の開放により、各国政府は最適な価格で最適な製品・サービスを購入できるようになる。

マルムストロム委員は同時に、こうした課題がマレーシアにとってセンシティブな問題であることに理解を示し、互恵的な協定の必要性を強調した。

2016年2月現在、EUとマレーシアの今後のFTA交渉スケジュールは公表されていない。ただし、報道によると、マレーシアのオン・カ・チュアン第2国際貿易産業相は2016年2月、EUとの交渉を加速させ、可能な限り早急にとりまとめる意向を示した。この背景には、2015年12月にEUとのFTA交渉を妥結したベトナムに対して、マレーシアの競争力を維持する意図があるとする見方もある。同相はまた、EUとのFTA締結による、国外からの投資の促進と、国内の雇用創出に期待を示した¹¹。

¹¹ <http://www.bilaterals.org/?m-sia-eu-fta-likely-to-conclude>、<http://www.portcalls.com/malaysia-fasttracking-fta-negotiations-eu/#>

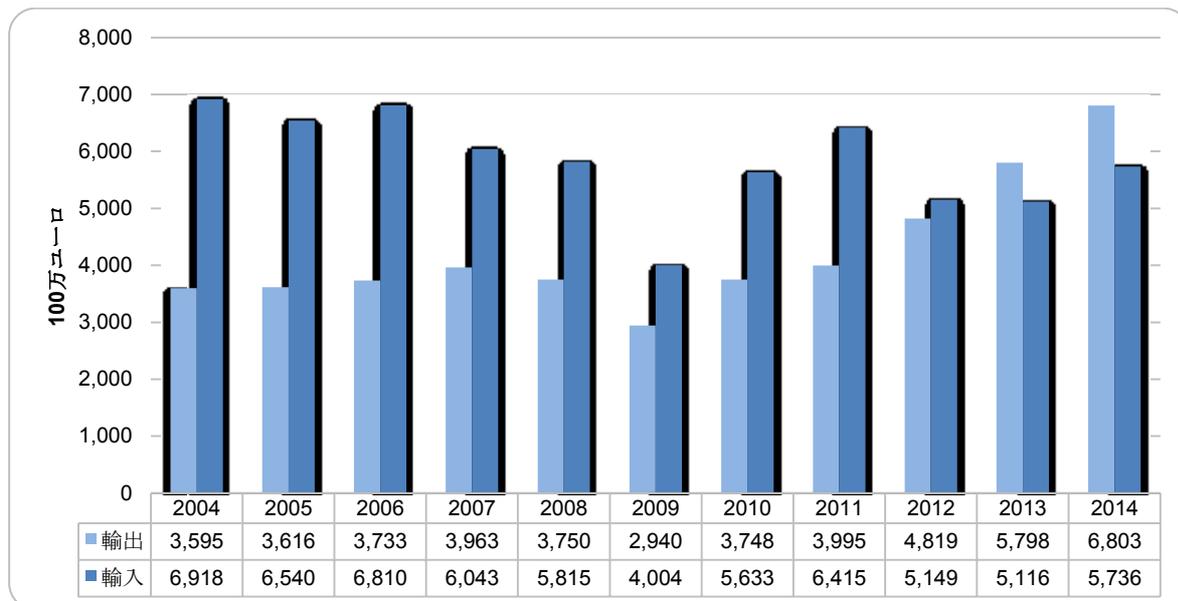
3. フィリピン

(1) EU との通商関係の現況

2014 年のフィリピンから EU への輸入額は 57 億ユーロ、EU からフィリピンへの輸出額は 68 億ユーロとなり、EU の対フィリピン貿易収支は 11 億ユーロの黒字だった。同年の EU・フィリピン間の貿易総額は、ASEAN 加盟国中、6 位だった。

EU・フィリピン間の貿易総額は 2004 年から 2014 年にかけて、19.3%（20 億ユーロ）拡大した。同期間に、フィリピンから EU への輸入額は 17.1%（12 億ユーロ）縮小した一方、フィリピンへの輸出額は 89.3%（32 億ユーロ）と大きく拡大した。2014 年の EU の対フィリピン貿易を前年比で見ると、輸入額は 12.1%（6 億ユーロ）、輸出額は 17.3%（10 億ユーロ）拡大した。

図 7：EU の対フィリピンの輸出入額の推移（2004～2014 年）



出所：European Union, Trade in goods with Philippines (October 2015)

http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113436.pdf

フィリピンから EU への輸入においては、機械・機器の比重が大きく、2014 年の全輸入額の 60.2%（35 億ユーロ）を占めた。2 位は光学機器・写真用機器（11.0%、6 億ユーロ）、3 位は動物性・植物性油脂（6.5%、4 億ユーロ）だった。2013 年から 2014 年にかけて輸入額が最も大きく変動した品目は機械・機器で、4 億ユーロ（13.6%）増加。次いで、光学機器・写真用機器の輸入額が 1 億ユーロ（29.7%）増加した。

EU からフィリピンへの主な輸出品目は輸送機器で、2014 年の全輸出額の 30.8%（21 億ユーロ）を占めた。2 位は機械・機器（27.9%、19 億ユーロ）、3 位は化学品（10.1%、7 億ユーロ）

だった。2013年から2014年にかけて輸出額が最も大きく変動した品目は輸送機器で、6億ユーロ（37.5%）増加した。次いで、家畜・畜産物の輸出額が2億ユーロ（66.5%）増加した。

図 8：EU のフィリピンへの輸出金額の品目別割合（2014 年）

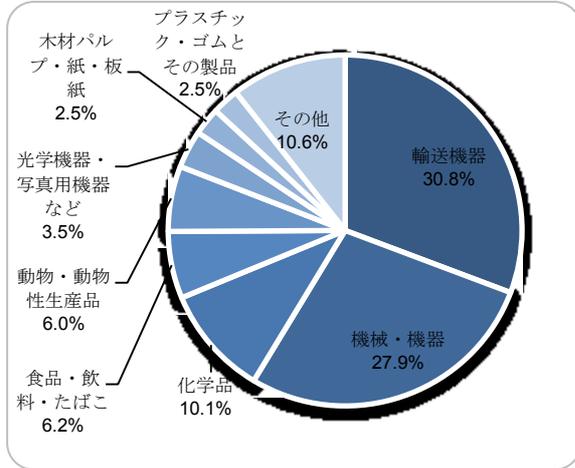
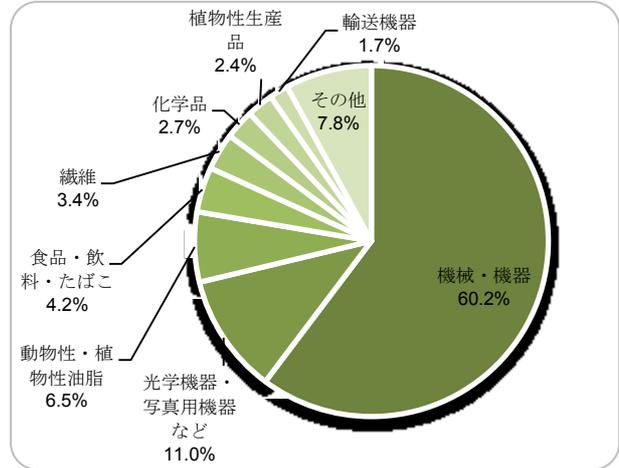


図 9：EU のフィリピンからの輸入金額の品目別割合（2014 年）



出所：図 7 と同じ。

(2) FTA 交渉の進捗状況

EU・フィリピン間の FTA 交渉は、2015 年 12 月 22 日に正式にスタートした。これにより、フィリピンは、EU と二国間 FTA 交渉を開始した、5 番目の ASEAN 加盟国となった。第 1 ラウンド交渉は 2016 年上半期に開催される予定だ¹²。

EU・フィリピン FTA は、2012 年に双方が締結したパートナーシップ協力協定（PCA）に基づき、通商関係をさらに発展させることを目指すものとなる。EU は、関税や非関税障壁、サービス、投資に加えて、公共調達や知的財産権保護、競争、持続可能な開発といった幅広い分野を対象とする包括的合意を目指すとしている¹³。また、EU はこの FTA において、経済関係の緊密化と、環境保護と社会的発展の両立を目指す方針だ¹⁴。

¹² http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/december/tradoc_118238.pdf

¹³ <http://ec.europa.eu/trade/policy/countries-and-regions/countries/philippines/>

¹⁴ <http://trade.ec.europa.eu/doclib/press/index.cfm?id=1429>

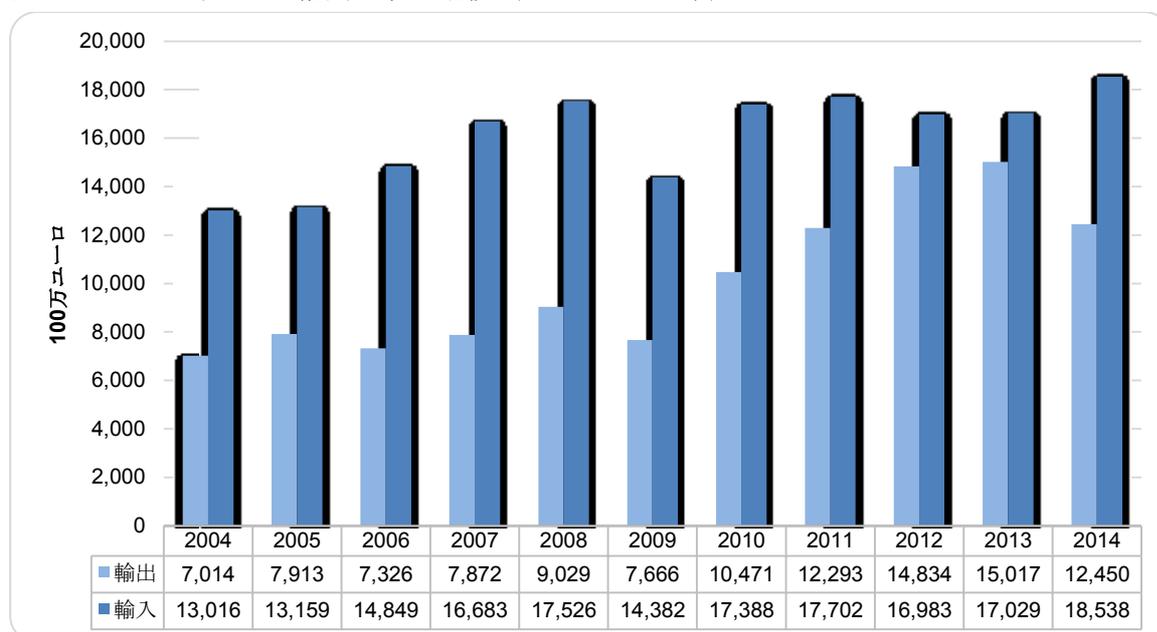
4. タイ

(1) EU との通商関係の現況

EU とタイの 2014 年の貿易総額は、ASEAN 加盟国中、3 位だった。2014 年のタイから EU への輸入額は 185 億ユーロ、EU からタイへの輸出額は 125 億ユーロとなり、EU の対タイ貿易収支は 61 億ユーロの赤字だった。

EU・タイ間の貿易は過去 10 年で 54.7%（110 億ユーロ）拡大し、特に、EU からタイへの輸出額は 77.5%（54 億ユーロ）拡大した。2014 年の EU の対タイ貿易を前年比で見ると、輸入額は 8.9%（15 億ユーロ）拡大した一方、輸出額は 17.1%（26 億ユーロ）と大きく縮小した。

図 10：EU の対タイの輸出入額の推移（2004～2014 年）



出所：欧州委員会、European Union, Trade in goods with Thailand (October 2015)

http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113454.pdf

2014 年のタイから EU への輸入において、最も大きな割合を占める品目は機械・機器で、同年の全輸入額の 39.7%（74 億ユーロ）を占めた。これに食品・飲料・たばこ（10.1%、19 億ユーロ）、プラスチック・ゴム製品（8.8%、16 億ユーロ）が続いた。2013 年から 2014 年にかけて、輸入額が最も大きく変動した品目は機械・機器で、8 億ユーロ（11.7%）増加した。次いで、輸送機器が 3 億ユーロ（23.6%）増加した。

2014 年の EU からタイへの主な輸出品目も機械・機器で、全輸出額の 33.8%（42 億ユーロ）を占めた。2 位は化学品（13.6%、17 億ユーロ）、3 位は輸送機器（11.9%、15 億ユーロ）だった。2013 年から 2014 年にかけて輸出額が最も大きく変動した品目は輸送機器で、12 億ユーロ（45.4%）減少、真珠・貴金属及びその製品も 6 億ユーロ（49.5%）減少した。

図 11：EU のタイへの輸出金額の品目別割合（2014 年）

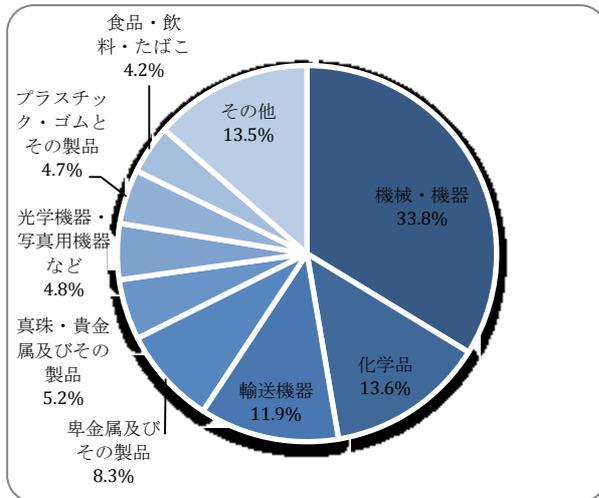
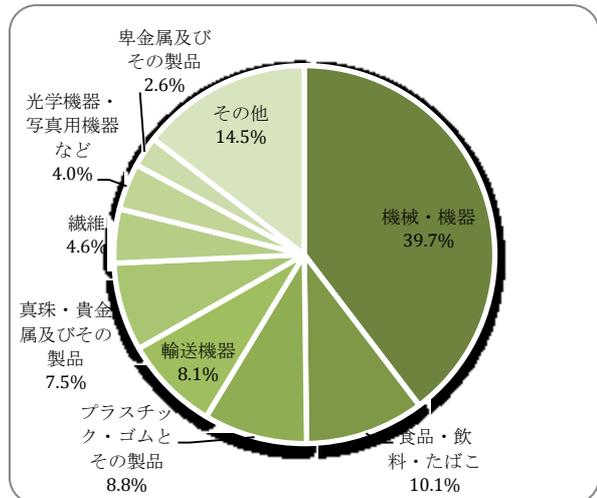


図 12：EU のタイからの輸入金額の品目別割合（2014 年）



出所：図 10 と同じ。

(2) FTA 交渉の進捗状況

EU 閣僚理事会は 2013 年 2 月、タイとの FTA 交渉の開始を認める決定を採択¹⁵。同年 3 月に双方は公式に交渉を開始した。関税や非関税障壁、サービス、投資、公共調達、知的財産権、競争、規制問題、持続可能な開発などの分野を対象とする、包括的合意を目指し、これまでに 4 回のラウンド交渉を実施した。最後の会合は、2014 年 4 月 8～10 日にブリュッセルで開催されたが、次回ラウンド交渉の予定は決まっていない¹⁶。

交渉停滞の原因は、2014 年 5 月に同国で発生した軍事クーデターだ。EU 外相理事会は 2014 年 6 月に声明を発表し、EU および加盟国は、当時、既に交渉を妥結していた、FTA 締結の前提となるパートナーシップ協力協定（PCA）にも署名しない旨を明らかにした。さらに、他の協定についても影響は免れないと警告している¹⁷。EU はタイの軍事政権に対し、包括的かつ信頼のおける選挙による、正統な民主的プロセスと、憲法の回復を呼び掛けている¹⁸。この点において、EU の対タイ政策、民政移管により経済制裁が解除され、新たな投資計画が持ち上がっている隣国ミャンマーとは対照的だ¹⁹。

報道によれば、バンコクに拠点を置く欧州企業団体「欧州ビジネス商業協会（EABC）」は 2015 年 3 月に、たとえ民主政権が樹立されるまで署名が実現しないとしても、双方は FTA 交渉を開始すべきとの見解を示した。同協会は同時に、タイ政府に対して、サービス部門の自由化や汚職問題の解決、政府調達への参加機会の拡大、人身売買対策の継続などを求めた²⁰。

¹⁵ http://www.consilium.europa.eu/uedocs/cms_Data/docs/pressdata/en/lsa/135746.pdf

¹⁶ http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/december/tradoc_118238.pdf

¹⁷ http://www.consilium.europa.eu/uedocs/cms_data/docs/pressdata/EN/foraff/143330.pdf

¹⁸ http://ec.europa.eu/thailand/index_en.htm

¹⁹ http://ec.europa.eu/myanmar/index_en.htm

²⁰ <http://www.nationmultimedia.com/business/European-trade-lobby-urges-restart-of-FTA-talks-30257090.html>

一方、欧州委員会・通商総局のミゲル・セバリョス＝バロン副官房長は 2015 年 11 月、欧州委員会の新貿易・投資戦略「万人のための貿易」は、人権保護や汚職対策、透明性を重視しており「EU 市民は到底、軍事政権を受け入れないだろう。たとえタイとの FTA 交渉が行われていたとしても、欧州議会は決してこれを批准しないだろう」と語った。こうした報道や EU 高官のスタンスを見る限り、民政移管が実現するまで FTA 交渉の前進は望めないものとみられる²¹。

²¹ <http://www.euractiv.com/sections/global-europe/zero-chance-thailand-fta-under-junta-commission-official-says-319713>

5. インド

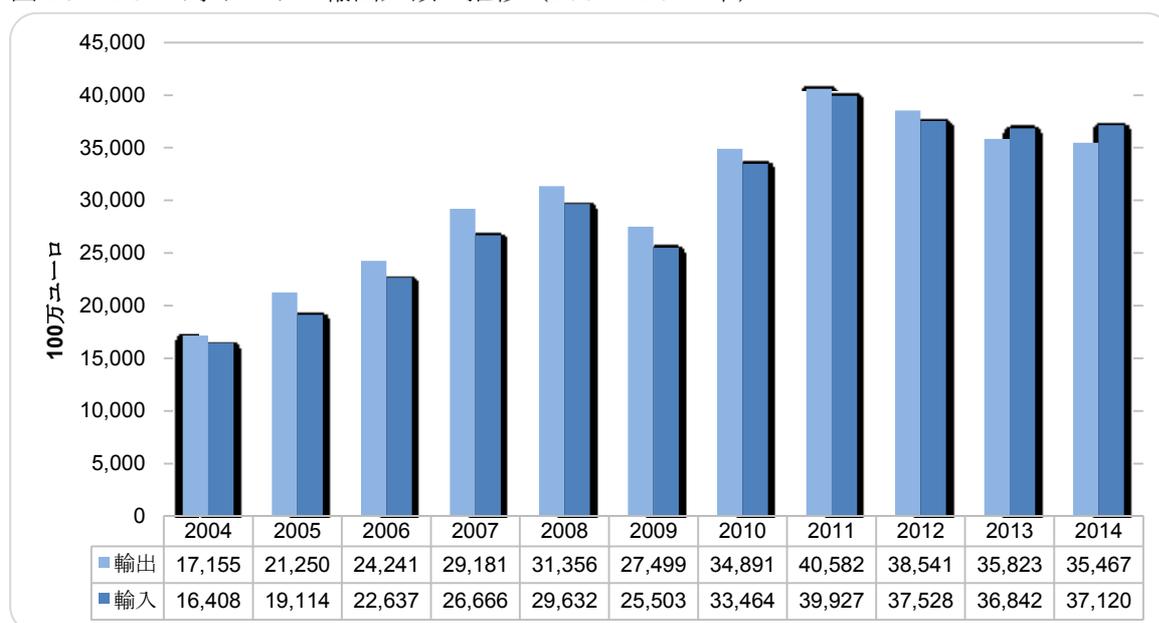
(1) EU との通商関係の現況

インドは2014年のEUの域外貿易額の1.3%を占める、世界9位の重要な貿易相手国だ²²。同年のインドからEUへの輸入額は371億ユーロ、EUからインドへの輸出額が355億ユーロとなり、EUの対インド貿易収支は17億ユーロの赤字だった。

2004年から2014年にかけて、EU・インド間の貿易額は輸入・輸出とも2倍以上に拡大したが、2011年にピークに達して以降、近年は減少傾向にある。2014年の輸出入の実績は、2011年と比較して、輸入額は7%（28億ユーロ）、輸出は12.6%（51億ユーロ）縮小した。輸出入の縮小の主要因として、インドからEUへの鉱物資源の輸入額が減少した（22億ユーロ減）こと、及び、EUからインドへの機械・機器の輸出が減少した（35億ユーロ減）ことが挙げられる。

2014年の輸出入の実績は前年比で、インドからEUへの輸入額が0.8%増、インドへの輸出額が1%減と、大きな変動はなかった。

図13：EUの対インドの輸出入額の推移（2004～2014年）



出所：欧州委員会、European Union, Trade in goods with India (October 2015)

http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113390.pdf

2014年のインドからEUへの輸入において、最も大きな割合を占めたのは繊維で、全輸入額の19.2%（71億ユーロ）を占めた。これに化学品（14.1%、52億ユーロ）、機械・機器（11.5%、43億ユーロ）が続いた。2013年から2014年にかけて、輸入額が最も大きく変動し

²² EU統計局（Eurostat）データより。

た品目は、鉱物資源で 21 億ユーロ（40.2%）減少と大きく落ち込んだ。反対に、繊維の輸入は 6 億ユーロ（9.4%）増加した。

EU からインドへの主な輸出品目は、機械・機器で、2014 年の全輸出の 28.2%（100 億ユーロ）を占めた。これに、真珠・貴金属（24.1%、86 億ユーロ）、化学品（10.4%、37 億ユーロ）が続いた。また、2013 年から 2014 年にかけて輸出額の変動が最も大きかった品目は、真珠・貴金属及びその製品で、6 億ユーロ（6.6%）減少した。その一方、化学品の輸出は 3 億ユーロ（9.5%）増加した。

図 14：EU のインドへの輸出金額の品目別割合（2014 年）

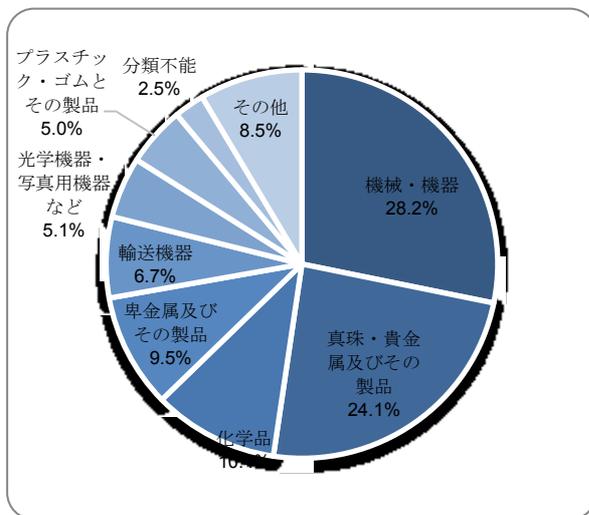
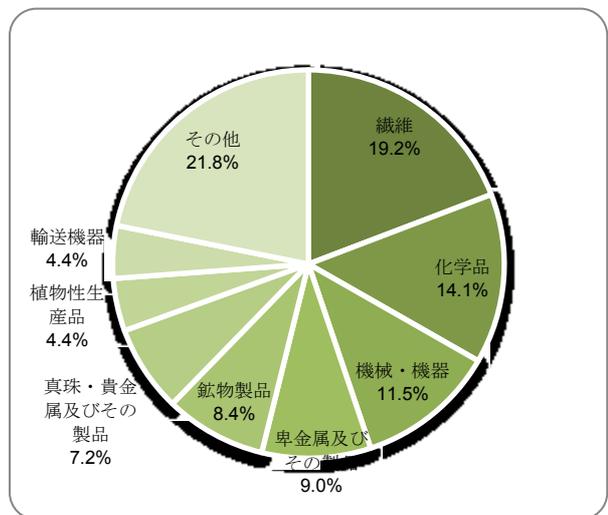


図 15：EU のインドからの輸入金額の品目別割合（2014 年）



出所：図 13 と同じ

(2) FTA 交渉の進捗状況

インドと EU の FTA 交渉は 2007 年 6 月に始まったが、双方の野心レベルや期待のずれから、2013 年半ばから停滞している。交渉の対象は物品・サービス・公共調達市場へのアクセス、投資の枠組み、知的財産権や競争などの他、環境や社会、労働者の権利と貿易拡大の両立に向けた、持続可能な発展だ²³。

報道によると、インド側の関心は主に、情報技術関連サービス（ITES）やビジネス・プロセス・アウトソーシング（BPO）、知的生産活動のアウトソーシングの他、高技能専門家の移動にあるという。一方、EU が期待しているのは、スーパー・マーケットやコンビニエンス・ストアのような、複数ブランドの商品を販売する小売流通（「マルチ・ブランド・リテール」）や保険、会計、法務サービスにおける外国直接投資（FDI）の自由化だ。加えて、知的財産権をめぐるルールも重視しているという。なお、インドは、世界貿易機関（WTO）の知的財産権保護ル

²³ <http://ec.europa.eu/trade/policy/countries-and-regions/countries/india/>
http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/december/tradoc_118238.pdf

ールにコミットすることにより、自国のジェネリック医薬品の製造能力が損なわれることを懸念しているという²⁴。

2013 年以来、インドの政権交代と EU・米国間の包括的貿易投資協定 (TTIP) 交渉が重なったことで、EU・インド FTA の交渉再開は遅れている²⁵。さらに、2015 年 7 月、インドの GVK バイオサイエンシズが実施した治験に対する疑惑を受けて、欧州委員会が、同社が試験した 700 種類のジェネリック薬の EU 域内の流通を禁止したことに対して、インド政府は、2015 年 8 月に予定されていた交渉会合を中断した²⁶。報道によると、双方は 2015 年末時点で 2016 年の交渉再開に前向きだったが²⁷、EU が自動車、ワイン、チーズ、法務サービスの輸入緩和をインドに要求したことから、またも交渉再開が遅れているという²⁸。

完成車に対するインドの輸入関税の引き下げは、交渉における大きな争点となっている。インド政府は、自動車部品への関税率を引き下げたものの、完成車に対しては 60% (一部 75%) の関税率を適用しているという。また、EU は、インド側に対しワイン・蒸留酒に対する関税や州税の引き下げを求めている。さらに、EU がインドに対して乳製品や鶏肉、水産品への関税引き下げに関心を持っているのに対し、インドは FTA 締結後に EU 産の乳製品が国内市場に大量に流入することを懸念し、EU の農業部門における補助金の抑制を求めている²⁹。

一方、日本や韓国、ASEAN などとの既存の通商協定により、輸入が増加し、競争力が損なわれているとして、インド企業の不満が高まっており、インド政府は EU との FTA 交渉に慎重になっているとする報道もある。さらに、EU がインドとの FTA において、知的財産権の保護を強化した場合、多くの開発途上国が依存しているインド製ジェネリック薬へのアクセスが制限されるとして、一部の市民団体は FTA 交渉に反対しているという³⁰。

EU とインドは、2007 年の交渉開始以来、計 12 回のラウンド交渉に加え、テーマを限定した、専門家レベルの会合や首席交渉官の会合、ハイレベル協議を実施してきた。欧州委員会によると、野心的な合意の実現に向けて、EU とインドは双方とも、互いに受け入れ可能な解決策を模索しているという³¹。

²⁴ <http://www.thehindubusinessline.com/opinion/india-should-seal-trade-pact-with-eu/article6148512.ece>

²⁵ <http://www.globalresearch.ca/india-eu-fta-time-for-a-fundamental-rethink/5481631>

²⁶ <http://www.livemint.com/Politics/knF2oeWivxzDJ5yo5iGuQJ/IndiaEU-FTA-talks-revival-likely-to-be-delayed.html>

²⁷ <http://www.bna.com/india-likely-restart-n57982065479/>

²⁸ <http://www.livemint.com/Politics/knF2oeWivxzDJ5yo5iGuQJ/IndiaEU-FTA-talks-revival-likely-to-be-delayed.html>

²⁹ <http://www.thehindubusinessline.com/opinion/india-should-seal-trade-pact-with-eu/article6148512.ece>

³⁰ <http://www.livemint.com/Politics/knF2oeWivxzDJ5yo5iGuQJ/IndiaEU-FTA-talks-revival-likely-to-be-delayed.html>

³¹ http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/december/tradoc_118238.pdf

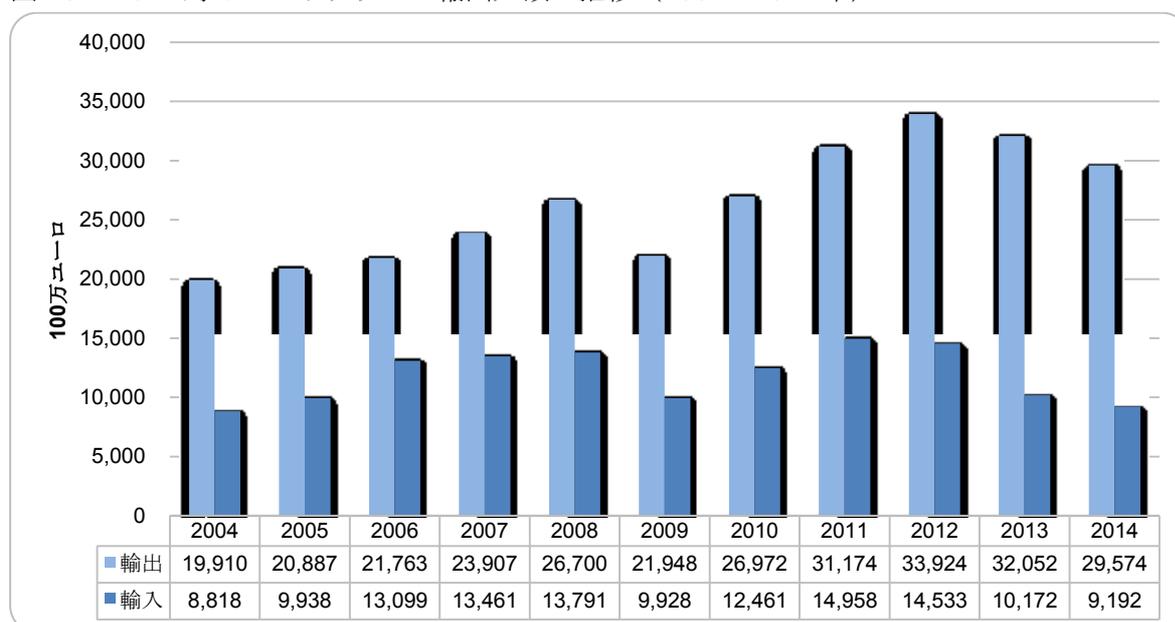
6. オーストラリア

(1) EU との通商関係の現況

オーストラリアは EU にとって、2014 年の時点で第 21 位の貿易相手国であり、EU はオーストラリアにとって中国と日本に次ぐ第 3 の貿易相手だ³²。2014 年のオーストラリアから EU への輸入額は 92 億ユーロ、EU からオーストラリアへの輸出額は 296 億ユーロとなり、EU はの対オーストラリア貿易収支は 204 億ユーロの黒字となった。

2004 年から 2014 年にかけて、オーストラリアから EU への輸入額は 4.2% (4 億ユーロ)、輸出額は 48.5% (97 億ユーロ) 拡大したが、2012 年にピークに達して以降、減少傾向にある。2014 年のオーストラリアから EU への輸入額は対 2012 年比で 36.8% (53 億ユーロ)、EU からオーストラリアへの輸出額は同 12.8% (44 億ユーロ) 減少し、貿易額の合計は 20.0% (97 億ユーロ) 縮小した。特に、真珠・貴金属の輸入額は 68.7% (27 億ユーロ)、鉱物製品の輸入額は 33.9% (16 億ユーロ) 縮小。その一方で、機械・機器の輸出が 23.3% (24 億ユーロ) 縮小した。2014 年の対オーストラリア貿易を前年と比べると、輸入額は 9.6% (10 億ユーロ)、輸出額は 7.7% (25 億ユーロ) 縮小した。

図 16 : EU の対オーストラリアの輸出入額の推移 (2004~2014 年)



出所：欧州委員会、European Union, Trade in goods with Australia (October 2015)

http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113346.pdf

2014 年のオーストラリアから EU への輸入においては、鉱物製品や真珠・貴金属及びその製品、卑金属及びその製品など、天然資源由来の品目が大多数を占め、合計して、全輸入額の

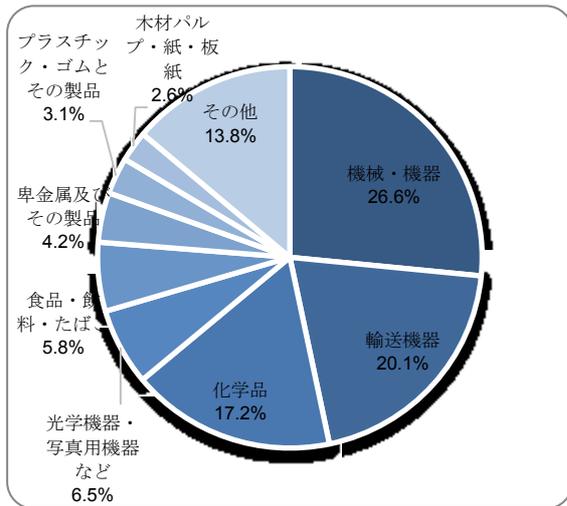
³² <http://ec.europa.eu/trade/policy/countries-and-regions/countries/australia/>

52.3%（48 億ユーロ）に達した。また、野菜製品と機械・機器の輸入額が占める割合は、それぞれ 10.3%（9 億ユーロ）と、6.9%（6 億ユーロ）だった。

2013 年から 2014 年にかけて真珠・貴金属及びその製品、鉱物製品、卑金属及びその製品の輸入額は、それぞれ 20.1%（3 億ユーロ）と 6.3%（2 億ユーロ）、22.5%（2 億ユーロ）縮小した。また、植物性生産品の輸入額も 20.8%（2 億ユーロ）減少した。これら 4 品目は、同期間において輸入額の変動が最も大きかった。

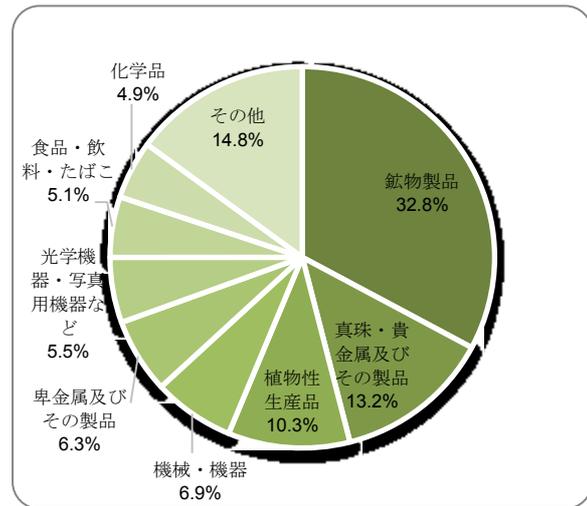
2014 年の EU からオーストラリアへの輸出額において最も大きな割合を占めたのは、機械・機器で、全輸出額の 26.6%（79 億ユーロ）を占めた。これに、輸送機器（20.1%、60 億ユーロ）、化学品（17.2%、51 億ユーロ）が続いた。2013 年から 2014 年に輸出額が最も大きく変動した品目は輸送機器で、10 億ユーロ（14.1%）減少した。次いで、機械・機器の輸出額の変動が大きく、7 億ユーロ（8.6%）減少した。

図 17：EU のオーストラリアへの輸出金額の品目別割合（2014 年）



出所：図 16 と同じ。

図 18：EU のオーストラリアからの輸入金額の品目別割合（2014 年）



(2) FTA 交渉開始に向けた動向

欧州委員会のジャン＝クロード・ユンケル委員長と欧州理事会のドナルド・トゥスク常任議長、オーストラリアのマルコム・ターンブル首相は、2015 年 11 月 15 日にブリュッセルで会談し、FTA 交渉開始に向けた作業に着手することで合意した³³。会談後に発表された声明では、FTA により、双方の持続可能な経済成長と投資が促され、新たな商機をもたらすとともに、イノベーションと雇用創出が促進されると、期待感を表明。FTA 交渉の対象範囲と野心レベルを決定す

³³ <http://ec.europa.eu/trade/policy/countries-and-regions/countries/australia/>

るための「スコーピング作業」を早急に開始することで合意した³⁴。報道によると、双方は2017年初めの正式交渉開始を目指しているという。

オーストラリアの外務貿易省は、EUとのFTA締結により期待される主な利益・恩恵として次を挙げている³⁵。

- 包括的で質の高いFTAをEUと締結することにより、通商・投資関係のポテンシャルが最大限に発揮される。
- 物品貿易の障壁が取り除かれる。
- サービスおよび投資での結びつきが強化される。
- 企業が関心を持つ特定の分野における規制協力が強化される。

オーストラリア政府は2016年2月現在、EU・オーストラリアFTAが企業活動や経済、地域などに及ぼす影響に関する意見公募手続きを実施している。特に、物品・サービス貿易の関税・非関税障壁と、投資の障壁に関する情報を歓迎している³⁶。また、欧州委員会も、2016年1月に同FTAの影響評価を開始した³⁷。影響評価の一環として、同FTAに関する問題点の定義や、政策目標・オプション、及び、それらが与え得る影響（経済的権益、社会権、環境権、人権含む）などについて、利害関係者からの意見収集も行う³⁸。

報道によると、EU・オーストラリアFTA交渉の妥結までは、数年間かかる見通しだ³⁹。また、EUの通商政策を専門とするシンクタンク、欧州国際政治経済研究所（ECIPE）は、オーストラリアは、成長著しい貿易パートナーである一方、なおも多くの規制の相違があると分析。さらに、EUにより近いトルコやノルウェー、スイスの方がオーストラリアよりも、EUにとって大きな市場となっていると指摘した。その上で、オーストラリアとのFTAは、多くの部分を規制・基準の相互承認に基づく、高水準なFTAとなる可能性があると結論した⁴⁰。

³⁴ http://europa.eu/rapid/press-release_STATEMENT-15-6088_en.htm

³⁵ <http://dfat.gov.au/trade/agreements/acufta/pages/acufta.aspx>

³⁶ <http://dfat.gov.au/trade/agreements/acufta/submissions/Pages/submissions.aspx>

³⁷ http://ec.europa.eu/smart-regulation/roadmaps/docs/2015_trade_040_au_nz_trade_agreement_en.pdf

³⁸ http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2016/february/tradoc_154245.pdf

³⁹ <http://www.euractiv.com/section/trade-society/news/eu-to-launch-trade-talks-with-australia-and-philippines/>

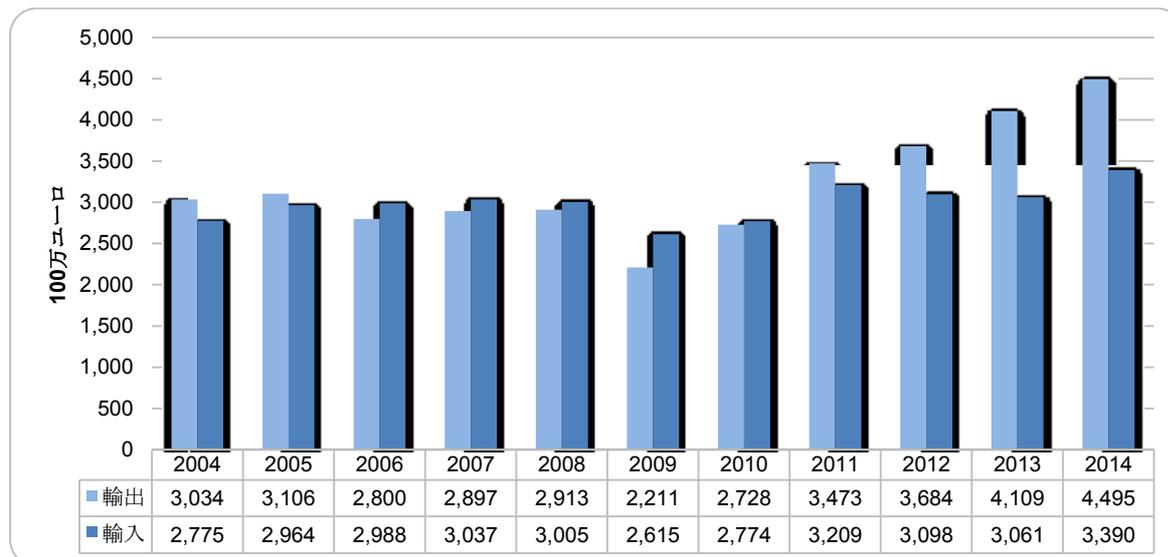
⁴⁰ http://ecipe.org/app/uploads/2014/12/EU-AUS_rodabbott.pdf

7. ニュージーランド

(1) EU との通商関係の現況

EU はニュージーランドにとって、中国とオーストラリアに次ぐ第 3 位の貿易相手国だ。ニュージーランドから EU への輸入は、農産物の比重が極めて大きい。これに対して、EU からニュージーランドへの輸出は工業製品が中心だ⁴¹。2014 年のニュージーランドから EU への輸入額は 34 億ユーロ、EU からニュージーランドへの輸出額は 45 億ユーロとなり、EU の対ニュージーランド貿易収支は 11 億ユーロの黒字となった。EU・ニュージーランド間の貿易額は 2004 年から 2014 年にかけて 35.7% (21 億ユーロ) 拡大した。特に、EU からニュージーランドへの輸出は 48.2% (15 億ユーロ) 拡大した。2014 年のニュージーランドから EU への輸入額を前年と比べると、10.8% (3 億ユーロ)、EU からニュージーランドへの輸出額は 9.4% (4 億ユーロ) 拡大した。

図 19 : EU の対ニュージーランドの輸出入の推移 (2004~2014 年)



出所：欧州委員会、European Union, Trade in goods with New Zealand (October 2015)

http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2006/september/tradoc_113425.pdf

ニュージーランドから EU への輸入においては、農産物の比重が大きい。2014 年の動物および動物性生産品と植物性生産品、食品・飲料・たばこの全輸入額に対する割合は、それぞれ 40.5% (14 億ユーロ)、14.5% (5 億ユーロ)、10.0% (3 億ユーロ) となり、3 品目の合計で 65.1% (22 億ユーロ) を占めた。この 3 品目に次いで、化学品の輸入額が、7.3% (2 億ユーロ) を占めた。また、上記の農産品 3 品目の輸入額は、2013 年から 2014 年にかけての変動が最も大きく、合計で 2 億ユーロ (9.1%) 増加した。

EU からニュージーランドへの輸出は、輸送機器と機械・機器が中心で、2014 年の全輸出額に占める割合は、それぞれ 29.7% (13 億ユーロ)、25.6% (12 億ユーロ) となり、合計で

⁴¹ <http://ec.europa.eu/trade/policy/countries-and-regions/countries/new-zealand/>

55.3%（25 億ユーロ）と、半分以上を占める。この 2 品目に、化学品（10.5%、5 億ユーロ）が続いた。2013 年から 2014 年にかけて輸出額の変動が最も大きかった品目は輸送機器で、3 億ユーロ（26.4%）増加した。

図 20：EU のニュージーランドへの輸出金額の品目別割合（2014 年）

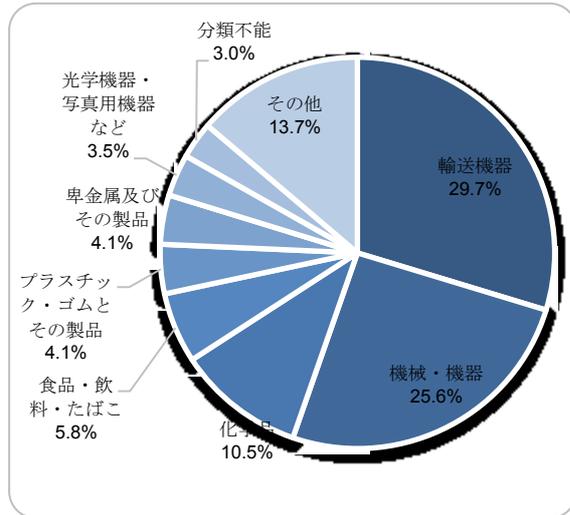
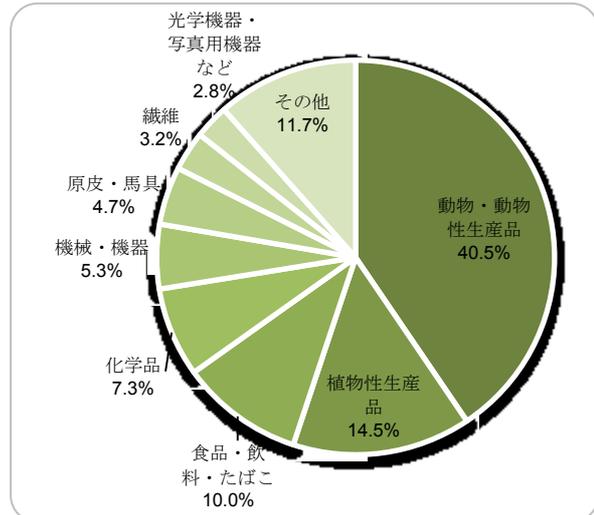


図 21：EU のニュージーランドからの輸入金額の品目別割合（2014 年）



出所：図 19 と同じ。

(2) FTA 交渉開始に向けた動向

欧州委員会のジャン＝クロード・ユンケル委員長と欧州理事会のドナルド・トゥスク常任議長、ニュージーランドのジョン・キー首相は 2015 年 10 月 29 日、ブリュッセルで会談し、会談後の宣言の中で、FTA 交渉開始に向けた作業に着手すると発表した。双方は、FTA 交渉の対象範囲と野心レベルを検討するために、スコーピング作業を早急に開始する方針で合意した⁴²。

欧州委員会は、同 FTA において双方が共有する目標として、サプライチェーンのグローバル化や、製造業とサービスにおける国際的な相互依存の高まりに対応した、ルール策定を挙げた。また、FTA の締結は、ルールの透明性や汚職対策に加えて、経済的利益と労働者の権利、環境保護の両立にもつながると期待感を示した⁴³。

欧州委員会は 2016 年 1 月、EU・オーストラリア FTA の影響評価と同時に、EU・ニュージーランド FTA についても影響評価を開始した。EU にとって、センシティブな農業分野を考慮するとしている⁴⁴。影響評価の一環として、EU・ニュージーランド FTA に関する問題点の定義や政策目標、政策オプション、および、それらが与え得る影響（経済的権益、社会権、環境権、人権含む）などについて、利害関係者からも意見収集を行う⁴⁵。

⁴² http://europa.eu/rapid/press-release_STATEMENT-15-5947_en.htm

⁴³ <http://trade.ec.europa.eu/doclib/press/index.cfm?id=1390>

⁴⁴ http://ec.europa.eu/smart-regulation/roadmaps/docs/2015_trade_040_au_nz_trade_agreement_en.pdf

⁴⁵ http://trade.ec.europa.eu/doclib/docs/2016/february/tradoc_154245.pdf

なお、ニュージーランド外務貿易省は 2016 年 2 月 29 日まで、同 FTA 交渉に関する意見公募を行った。同省によると、スコーピング作業や、EU の影響評価と加盟国からの交渉権限委任（マンデート）の取得などを待たなければならないため、FTA 交渉開始は、2017 年初めとなる見込みだという⁴⁶。

⁴⁶ <https://www.mfat.govt.nz/en/trade/free-trade-agreements/agreements-under-negotiation/eu-fta/call-for-public-submissions-on-the-proposed-eu-fta/>

レポートをご覧いただいた後、アンケート（所要時間：約 1 分）にご協力ください。
<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20150167>

EU のアジア大洋州における
自由貿易協定（FTA）交渉の動向

2016 年 3 月発行
独立行政法人 日本貿易振興機構
東京都港区赤坂 1 丁目 12 番 32 号
アーク森ビル私書箱 528 号
〒107-6006 電話(03)3582-5569 海外調査部 欧州ロシア CIS 課

禁無断転載